

一卵性雙胎妊娠ニ併發セル急性羊水過多症ノ一例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38401

十全會雜誌

（第五拾七號）

原 著 及 實 驗

● 一卵性雙胎妊娠ニ併發セル 急性羊水過多症ノ一例

鬼 頭 英

一卵性雙胎妊娠ニ併發セル羊水過多症ハ稀有ノモノニ非ズ又其症狀診斷治法等一般ノ羊水過多症ニ於ケルト大差ナシ唯吾人ガ此ノ如キ症例ニ際シ聊カ注意ヲ惹起スルハ其原因ノ研索ニ興味アレバナリ
抑モ羊水成立ノ淵源ハ未ダ定説ナク胎兒血液ノ滲透液ヲ主トシ母体血液滲透液并ニ胎兒尿トヲ副トナスコト方今多數學者ノ稱道スル所ナリ故ニ羊水過多症ノ原因モ此三大因子ニ分レ各細別ノ研索ヲ遂ゲザルベカラザレバ其原因ヤ頗ル多岐ナリト謂フベク而シテ其レガ確證ヲ擧グルコト困難ノ場合多シ尙其原因ノ一ツトシテ羊水吸收ノ不全モ稱セラル、處ナリト雖モ未ダ之レガ證左確ナラズ
茲ニ羊水過多症ノ特種ノモノト見做スベキハ一卵性雙胎妊娠ニシテ一胎兒ニ屬スル羊膜嚢ノミ羊水過多症ヲ起セル本例ノ如キ場合ニシテ當該例ニアリテハ母体ニ因スル總テノ原因ハ全懷ニ兩胎兒ニ關聯スベキヲ以テ之ヲ除外シ得ベク從テ胎兒、後産ニ就テノミ探查スレバ足り大ニ攻究ニ便ナラシ

（原著及實驗）

ム然レモ本例ニ就キテモ後段述ブルガ如ク衆說尙相一致セズ今予ノ例ニ就キ臨床經過産兒剖檢所見ヲ擧ゲ次デ當例ニ對スル四五ノ學說ヲ摘錄シ終リニ卑見ヲ添フ

臨床日誌 廿五歳ノ雇女、天賦强健ニシテ十四歳ノ時月華初潮シ十八歳ニテ婚嫁、廿一歳ニテ一男ヲ舉グ妊娠產褥時共ニ異常ナカリキ、廿五歳ノ四月妊娠凡ソ四ヶ月ニシテ流産ヲ營ミシモ格別ノ障害ナク同年七月最終月經アリテ以來輕度ノ妊娠不確徵アリ妊娠ヲ自覺ス十月中妊娠月數ニ比シ腹部膨滿大ナルヲ感ジタリ爾後膨滿ハ漸次加ハリシモ十一月十三日以來其度急激ニシテ爲メニ呼吸困難、心窩部苦悶嘔吐（殊ニ朝時ニ於テ烈シ）ヲ訴ヘ殊ニ攝食、睡眠不充分ノ爲メ衰弱甚シク十一月廿四日入院治チ乞フ

患者強度ノ腹部膨滿ノタメ呼吸淺表速迫、心悸モ亦充進ス胸部臟器等異常ナシ腹部ハ著シク膨滿前方ニ突出ス然レモ其形狀不正ニシテ右側ニ於テハ上界高ク位シ肋骨弓部ヨリ著明ニ膨出スルモ夫レヨリ左方ニ進ムニ從ヒ漸次下降シ正中線ニ於テハ劍狀突起尖端ニ位シ左側ニアリテハ漸ク肋骨弓下ニ達スルノミ即チ腹部膨滿ハ大小形ヲ異ニセル左右ノ分房ニ區劃セルノ狀ヲ示ス臍部ニ於ケル腹圍九一仙迷、緊張著シク波動著明妊娠線（新舊）多數ヲ認ム、妊娠確徵不明然レモ乳房、并ニ内診所見ニ於テ妊娠確徵著明ナリ尿検査異常ナシ

以上ノ所見ニヨリ羊水過多症（子宮ノ形狀ヨリ双胎妊娠ニ非ザルカ）ト診斷シ可成ハ自然分娩機ヲ待ツベク經過ヲ監視セリ然レモ患者苦悶日ニ益増激シ全ク絶食、日夜涕泣シテ苦痛ノ去ランコトヲ乞ヒテ止マズ依テ入院後第五日（臍部ニ於ケル腹圍九五仙迷）子宮口部ニ於テ卵膜穿刺法ヲ行ヒシモ羊水ノ漏出僅カニ數布ヲ濕潤セシメタル位ニ過ギズ患者依然懷嚮ス超エテ翌

(原著及實驗)

日更ニ手指卵膜剝離ニ兼ネテ稍大キ套管針ニヨリ再ビ卵膜穿刺法ヲ行ヒ羊水ヲ出約千瓦ニシテ針ヲ拔去ス術後羊水瀕リニ漏泄スルコト約三時間ニ及ブ其量ヲ秤定セザリシモ凡ソ六七千瓦ヲ下ラザリシナルベシ其後腹痛漸ク發作シ術後三時五十分ニシテ小胎兒足位ヲ以テ娩出セリ
第一兒娩出後陣痛強カラズ然カモ第二兒ハ左上肢脱出セル横位ナナル爲メ強力ヲ以テ之ヲ娩出セリ

第二兒分娩胎胞ノ形成ナク其產出後羊水ノ排出多量ナラズ次デ十分時ニシテ兩兒ニ共通ノ一個ノ大ナル胎盤娩出セリ
產褥經過異常ナク術後二週間ニシテ全治退院セリ

產兒ハ共ニ未熟兒、女性ニシテ何レモ娩出ノ際手術的措置ノ爲メ死産ナリ
第一兒 体重二〇〇瓦、身長二一・五仙迷頭蓋周圍一五・五仙迷胸圍(乳位)一一・五仙迷

第二兒 体重四三〇瓦身長二七・〇仙迷頭蓋周圍二〇仙迷胸圍一六・五仙迷腹部ハ一般ニ膨滿シ臍位ニ於テ腹圍一六・五仙迷ヲ算ス
兩兒共ニ畸形ヲ認メズ又死後變化ナシ

胎盤 不正圓形ニシテ直徑廿仙迷自然ニ大小二葉ニ頌タレ其間ニハ深キ截痕ヲ有ス其部領ノ比二ト一ニシテ大胎兒ニ屬スル臍帶ハ大葉ヨリ出デ小胎兒ニ屬スル臍帶ハ小葉ヨリ血管ヲ集ム兩兒ヨリノ臍帶血管ヲ追跡スルニ明カニ相互ニ吻合スルヲ認ム、胎盤母体面分葉明カナラズ一般ニ水腫狀ナル外異常ナシ

卵膜 薄ク羊膜腔ハ二枚ノ羊膜壁ニヨリ隔テラレ大兒ニ屬スル者ハ著シク大、小兒ニ屬スルモノハ小ナリ

臍帶 大兒ニ屬スル者ハ太ク稍浮腫狀ヲ呈シ捻轉、眞假結節ナク側方附著、長サ二五仙迷周圍三・五仙迷

小兒ニ屬スルモノハ細ク全シク捻轉結節等異常ナキモ唯著シキ卵膜附著ニシテ即チ卵膜ヲ走ルト約二〇仙迷後合シテ臍帶ヲ形成ス其長サ二八・仙

迷周圍一・八仙迷ナリ

死産兒解剖所見 剖檢ハ分娩ノ翌日執行セラル

大胎兒 死後強直尙證明シ後、頭部ヨリ背部殊ニ右側ニハ暗赤色ノ死斑アリ

腹壁ハ他ノ胎兒ヨリ著シク膨隆ス腹腔内ニハ帶褐黃色ノ混濁セル比較的濃厚ナル液約一六立方仙迷ヲ容ル腹膜兩葉全ク透明ナリ

肝臟 左緣ノ廣延セル大部分ニ出血點アリ質地緩著シク破レ易シ後部汚穢暗褐色ニシテ觸ル、ニ軟カナリ割面血量常ノ如ク慢延性ノ混濁アリ、胆囊ハ多少黃色ヲ帶ベル稍粘稠ナル液ヲ容ル、肝臟ノ大サ「八・〇」「四・五」「三・〇」仙迷重量三六・〇瓦

直腸 S 字狀部ハ胎糞ノ爲メニ擴張シ小腸ノ下部モ亦同ジク胎糞ヲ容ル、橫隔膜ノ高サ右第三、左第四肋間

兩肺ノ性質脾臟ノ如ク左肺ハ殊ニ膨隆強シ

心臟 心尖鈍緣ニシテ左右兩室ヨリ形成ス右室壁厚クシテ肉柱筋層ヲ除キ約三穗迷アリ肉柱筋層輕度ノ混濁ヲ呈ス、左室壁筋ノ厚サ約七穗迷、心腔

內空虚、外膜內血管充漲ス右室基部一・七仙迷左室基部一・五仙迷長徑二・〇仙迷、心瓣膜口太キ動脈管口等異常ナシ兩肺及ビ心臟ヲ合シタル重量二七・〇瓦

咽喉氣管粘膜等充血ス、脾臟側面中央部ニ被膜下出血アル外異常ナシ重量三・五瓦

左側腎及ビ副腎 兩者ノ境界著明皮質ト髓質トノ境界充血セリ大サ「三・〇」「二・〇」「一・五」仙迷重量七・〇瓦

右側腎及ビ副腎 性狀左ニ全シ大サ「三・〇」「一・六」「一・五」仙迷重量八・〇瓦

膀胱 尿充滿セズ格別ノ擴張ナシ輸尿管變化ナシ

小胎兒 腹壁膨滿セズ腹腔内ニハ前者ノ如キ液ナシ
大小腸ノ下部殊ニS字狀部ニ多量ノ胎糞ヲ充タス、横隔膜ノ高サ右第三左
第四肋間

肝臟 弛緩シ極メテ破碎シ易シ重量九・〇胆胆囊内ニハ黃色液僅少ニ存ス、
脾臟ノ大サ「一・七」「〇・五」「〇・三」仙迷重量一瓦

左腎及右副腎 髓質ハ血量多シ重量二瓦

右腎及右副腎 變化ナシ重量一・七瓦大サ「二・〇」「一・〇」「〇・六」仙迷

心臓、右室基部ニ於テ〇・七仙迷左室基部ニテ〇・八仙迷長徑一・二仙迷、両

肺異常ナシ心肺ヲ合シタル重量七瓦

以上臨床并ニ剖見所見中梗塞ナルモノヲ摘録セバ左ノ如シ

一、本例ハ始メ慢性經過ヲ取り後ニ急性ニ變ゼシ羊水過多症ナリ

二、胎兒及ビ月經閉止時ヨリ推測スルニ妊娠第五ヶ月ニ相當ス

三、兩産兒共ニ畸形、梅毒症狀ナシ

四、大胎兒ニ屬スル羊膜囊ニ羊水過多症ヲ生ジ該兒ノ心肝并ニ腎臟共ニ著

明ノ肥大ヲ呈シ胸水、腹水アリ臟器一般ニ多血性ナリ

五、小胎兒ニ屬スル羊膜囊ハ羊水過多ナラズ臟器肥大ナシ

六、胎盤ハ外觀二分葉ニ分タレ大葉ハ大胎兒ニ小葉ハ小胎兒ニ屬ス 其大サ

凡ソ二ト一ニ比スベシ而シテ大胎兒ヨリ出タル兒帶ハ比較的太ク浮腫狀

ヲ呈シ側方附著、小胎兒ニ屬スル臍帶ハ細ク浮腫ナク卵膜附著チナス、

兩者ヨリノ血管ヲ追探スルニ明カニ其吻合ヲ認ム臍帶ノ各所ヨリ顯微鏡

標本ヲ造リ見ルニ動靜脈共ニ中層(血管壁)ハ比較的厚ク動脈管腔ハ普通

見ルガ如ク甚ダ狭小ナルモ管腔ノ閉塞血液栓塞等異常ヲ見ズ

シヤツツ氏掲載ノ未熟兒体及ビ臟器測定表ノ中ヨリ本例ニ相當スルモノヲ

撰ミ之ヲ對照セシニ左ノ如シ

身長	体重	心十肺	腎臟	肝臟	脾臟
標準兒 27.0	48.2	4.5+1.5	8.5	25.5	2.5
		=19.5			

(原著及實驗)

大胎兒 (本例)	27.0	430	27.0	7+8 =15	36.0	3.5
----------	------	-----	------	------------	------	-----

標準兒	19.5	206	1.5+7.4 =8.9	1.1	11.6	0.5
-----	------	-----	-----------------	-----	------	-----

小胎兒 (本例)	21.5	200	7.0	2+1.7 =3.7	9.0	1.0
----------	------	-----	-----	---------------	-----	-----

表中心肺ハ都合上合算セルヲ以テ心臓ノミノ秤定數不明ナレバ大胎兒ノ心
臟ハ肉眼上著シク肥大セルコト疑ヒテ容レザル所ナリ

抑モ一卵性双胎妊娠ニシテ一胎糞ニ羊水過多症他胎糞ニ却テ羊水過少症ヲ

起セルノ異例ニ就キ自己實驗ノ數例ニ基ヅキ所謂第三胎盤循環説ヲ稱道セ

シシヤツツ氏ノ説ニヨレバ双胎兒共通ノ一個ノ胎盤内ニテ相互血管ノ吻

合スル領域アリ之ヲ第三胎盤循環ト稱ス此處ニ於テ兩兒血液ハ交通ス而シ

テ其血流ノ方向ハ當初動脈血流ノ容易ナルモノヨリ其然ラザル者ニ向ヒ輸

送セラル、モノニシテ爲メニ後者ハ漸次多血トナリ從テ心肝腎ノ肥大遂ニ

血管壁ヨリノ滲透多量トナリ殊ニ尿排出量ハ頗ル多量トナリ胎盤中ニ滯留

スルガ爲メ茲ニ羊水過多症ヲ生ジ前者ハ之ニ反シ臟器發育モ緩徐ニシテ却

テ羊水過少症ヲ起スニ至ルモノナリ (Archiv f. G. Bd. XIX)

次テ説チナセルハハウエルト氏ニシテ曰ク胎盤ニ於ケル新陳代謝機能ヲ單ニ

「オスモーゼ」ニノミ歸スル能ハズ脈絡膜絨毛上皮細胞ノ自働的作用(化學

并ニ物理的)ノ與テ力チナスモノニシテ延ヒテ其作用ノ異常ハ母体ヨリ胎

兒ニ向ヒ多量ノ液体流入トナル然レバ兒体ニテモ制限アリテ一定量以外ノ

液体ハ攝取スルコト能ハズ過剩ハ体外即チ胎盤内ニ排出セラル即チ羊水過

多起ル所以ナリ而シテ胎兒ニ心肝腎等肥大ノ起ルハ其過勞ノ結果ナリ要ス

ルニ原因ヲ脈絡膜上皮細胞ノ機能變化ニ歸セリ (Archiv f. G. Bd. XX)

キニストネル氏ハシヤツツ説贊同ノ一人ニシテ唯彼ノ云フガ如ク初メノ關

係ハ茫漠タルモノニ非ズ必ズ一方ノ胎兒ニ循環障礙アルガ爲メ起ル血壓ノ

差異ガ血液頒布ノ不平ヲ至スモノナリ例ヘバ卵膜附著臍帶一胎兒ニアレバ

胎盤循環ハ他胎兒ニ容易ニシテ前者ニ困難ナリ故ニ血液ハ第三胎盤循環ニヨリ多ク後者ニ輸送セラル爲メニ該兒ハ多血トナリ初メ肝臟ノ肥大後ニ其硬化、門脈系ノ鬱血、心臓ノ勞働性肥大遂ニハ其不全ヲ惹起シ血管滲透液ノ增量殊ニ多尿ヲ起スガ爲メ羊水過多症ヲ生ズルニ至ル (Archiv f. G. Bd. XXI.)

其後アールコエルド及ビスビーゲルベルヒハ重ニ原因ヲ胎兒畸形ニ歸シシヤツツ、キュストネル説ニ反對セリ (V. Wynecel, Handbuch d. Geburtshilfe, Bd. II. 2.)

エフ、シヤウタモ亦反對派ニシテ曰クモシ一胎兒ニ向ヒ第三胎盤循環ニヨリ輸血盛ナルガ爲メ心肥大ヲ起セシナラバ其後ニハ何故ニ反對ノ關係ヲ起サバヤニ付キテハシヤツツハ不問ニ附セリ又肥大セル心臓ノ不全ヲ起スニ先チ反對ノ血流ヲ生ジ發育不充分ナル胎兒ニ向ヒ逆流セザルヤノ説明ハキュストネルハ與ヘズ故ニ本問題ハ尙不明ニ屬ス (E. Schanla, Lehrbuch d. G. Hilfe) 其他同様ナル「カズイスチツク」ニヨリ胎盤ニ於ケル兩胎兒ニ占屬スベキ領域ノ差異ガ血液輸送ノ差ヲ生ジ從テ發育不等、一方ニ羊水過多ヲ來スモノニシテ靜脈管ノ吻合胎盤内ニアルモ甚ダ僅カニシテ之ニヨリ血流ノ均等ナリコト疑ハシト稱シ (Thies, Centralblatt f. G. 1906 No. 1.) 又羊水過多ハ兩胎兒素質ノ異ナルニ從ヒ起ルモノニシテ發育不同ハ羊水過多ノ結果ナリ而シテ血壓亢進及ビ多尿ニヨリ多量ノ羊水成立ヲ見ルト云フアリ (Centralblatt f. G. 1908 No. 3.) 胎兒内吻合ノ血管ハ僅カニ細キモノニ本ノミニシテ其レニヨリ充分ナル血液交流ノ行ハル、疑ハシト云フ反對説 (Schell, Centralblatt f. G. 09 No. 10) 等諸説紛糾タリ

本邦ニアリテ三尾太氏(中央醫學會雜誌第八十八號)ヲ最近トシ佐藤(勤也)山田、猪木氏等ノ報告アリ三尾太氏ハ本例原因ハ要スルニ多般ニシテ之ヲ單一原因ニ歸スル能ハザルモノナリト稱シ佐藤氏ハ二例共ニ卵膜附着臍帶、臍帶動脈管腔ノ狹窄、心臓ボツタリ一氏皆異常等即チ直接循環道ノ障

害ニヨリ之ヲ説明セントスルモノ、如ク山田氏ハ胎兒素質ノ異ナルニ從ヒ起ル兩兒ノ生存競争ノ結果ナリト云フニアリ

要スルニ本例原因ニ就キテハ前陳ノ如ク第三胎兒循環并ニ多尿説又ハ鬱血、多尿説ヲ初メトシ畸形説素質説原因不明説等類別スルコトヲ得ベシ今予ノ例ヲ見ルニ其畸形説ニ依ル能ハザルハ勿論ニシテ又素質説モ其残余ニ根據ナキヲ惜ム所ナリ予ノ例ニアリテ胎兒血管吻合、著シキ卵膜附着臍帶、心肝腎ノ肥大及ビ内臓一般ノ多血等總テシヤツツ、キュストネル所載ノ所見ニ一致シ然カモ他ニ之ヲ惹起スベキ病變ヲ認メザルヲ以テ予ハ深味アル前氏ノ説ニ歸セシムルノ妥當ナルヲ信ズ勿論予ノ例ヲ研探杜撰ニシテキュストネルノ稱スル如ク羊水中ニ尿素ノ現出多量ナリシヤ否不明ニ屬スト雖モ予ノ例ニ於ケル腎臟ハ前表ノ如ク其標準兒ノ者ニ比シ殆ンド二倍大ノ肥大ヲナスヲ見レバ假令膀胱擴大ヲ呈セズトモ心肥大ト合セ考ヘ尿過剩排出ノアリシヲ想像セシメ得ベシ蓋シシヤウタノ反駁ニ對シ一矢酬ユベキノ原因ハ本例ニ於テ發見スルコト能ハザリシヲ遺憾トス

尙諸氏ノ報告ヲ見ルニ本例ニ於テ兩兒體發育ノ殆ンド相等シキ場合ト反之其大差アル場合トヲ見ル而シテ各兒ニ屬スベキ胎兒分葉領域ノ大小ハ必ズシモ前者ノ比ニ伴ハズ兩兒體殆ンド相等シキニ胎兒領域ノ差頗ル懸隔ヲ呈セル場合アリ他方ニ於テ兒體發育ノ眞否ト内臓肥大トモ亦相伴フモノニ非ズ屢々体ハ兩者外觀上相等シキニ内臓ニハ著シキ差等ヲ生ゼルコトアル等ノ疑問ニ對シテハ闡明セザル所ナリ

終リニ臨ミ醫學士東自助氏ハ本例兒體剖檢ノ勞ヲ執ラレ井ニ醫學得業士齊澤清作氏モ多大ノ幫助ヲ與ヘラレタル厚意ニ對シ深謝ス